

塘研究室現地調査報告

研究室で今年度実施している猪苗代湖及びその周辺の池沼・湿地での底生動物調査について、2つほど現地調査報告をします。

1つは猪苗代湖西側の会津若松市湊町での調査です。少し前になりますが、6月22日に赤井の道路(R294)のすぐ脇にある小さな池の調査を実施しました。池の岸付近には網が自由に動かせないほどコカナダモ(侵略的外来生物)が繁茂していました。池の奥(道路とは反対側)はヒシでびっしり覆われていました。底生動物は貧弱かと思いきや、ヌカエビが多数生息し、特筆すべき種は見つからなかったものの、トンボ類、ゲンゴロウ属を含むゲンゴロウ類、水生カメムシ類など、比較的豊富でした(個体数はそれほど多くありませんでしたが)。8月21日にはこの池の少し北にある、やはりR294沿いの釣り人を良く見かける池に網を入れました。こちらにもヒシはありましたが、それほど繁茂しておらず、コカナダモも多くありませんでした。岸边にはヨシが繁茂し、ヨシ以外の抽水植物も池内にありました。この池はアメリカザリガニ天国でした。しかも大型個体がかなりの数いました。こちらの池もこれだけ侵略的外来種が入ってしまっていると底生動物は貧弱かと思いましたが、ゲンゴロウ、イトトンボ類、ミズカマキリなど、底生動物がいくつか確認できました(決して多様性が高い訳ではありませんでしたが)。その後、共和にあるやや大きめの池に行きましたが、こちらはこれら2つの池とは対照的に在来の水生植物が豊富で(タヌキモ類や浮葉植物が多い)、底生動物の種数も個体数も多かったです。また、チスイビル個体数も多かったです。トンボ類も豊富なようで、短時間の観察でしたが、キイトンボ、クロイトンボ、オゼイトンボ、アジアイトンボ、モノサシトンボ、ノシメトンボ、シオカラトンボ、ギンヤンマ、ルリボシヤンマ属の成虫を確認しました。また、池の西側から低水温の細流が流れ込む場所には夥しい数のオオエゾヨコエビ(在来の淡水生ヨコエビ類)が生息していました。オオエゾヨコエビは猪苗代湖の北側には広く分布していますが、西側からは(私にとっては)初めての分布確認となりました。この場所にはシマアメンボやニホンカワトンボのヤゴなど、流水性種も生息していました。

もう1つは猪苗代湖での調査です。9月1日に北岸、長浜付近での調査を実施しました(白鳥号や亀号が発着する翁島港から50mほど離れた場所です)。先週の台風による影響で増水し、水位が上昇しているようでした。底質は礫質で、ところどころに砂質部がありました。少し沖に出るとヒル類、スジエビ、タイワンシジミ、カワニナ、イトミミズ類、流水性種であるシロタニガワカゲロウばかりになりますが、岸边付近にはヒラタドロムシ類、モンカゲロウ類、フタツメカワゲラ属、ヒメシロカゲロウ属 CD、オナシカワゲラ属、コガシラミズムシ、ヒメドロムシ類などが見られました。北岸の名倉山付近と同様、流水性種が多く、環境省第4次レッドリスト掲載種であるコオナガミズスマシ(絶滅危惧II類)も1個体確認しました(北岸の三城湯付近でも1個体を確認しています)。ただし、トンボ類のヤゴは見つけれませんでした(ヤマトンボ類やイトトンボ類の成虫は飛んでいましたが)。



会津若松市湊町、赤井の池

岸付近ではコカナダモ(褐色部)が大繁茂している



猪苗代湖北岸、長浜付近

流水性種が多く見られ、希少種も確認された